

問題 1

Aの図は登場人物です。空欄のカニの名前を読んでみよう。

柿の種を拾った猿と、焼き飯を

拾ったカニがそれぞれを交換します。

カニが種を植え、カニが

「柿がならないならちよん切るぞ」

と言うと、一夜で大木となりました。

猿がやってきて、甘い柿を食べ、

渋柿をカニに投げつけます。

さるかに合戦のさるかに合戦



さ	①	②	③	④	⑤	さ	⑥	の	⑥	け
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

なんぎ*

*なんぎ：難儀。処理することがむずかしい様

問題2

Bの図は登場人物です。空欄の字を埋めて、名前を読んでみよう。

猿さるに柿かきを投げつけられ、

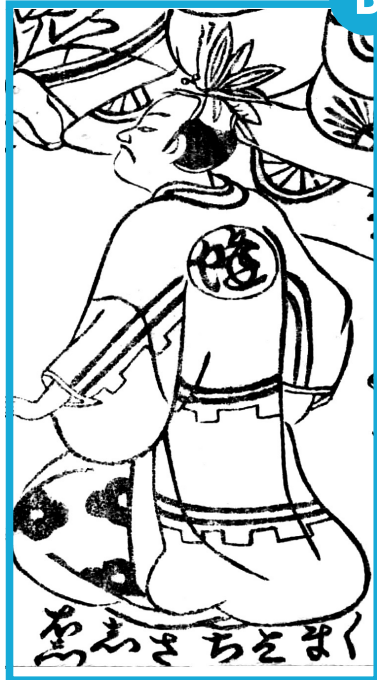
怪我けがを負おった鉢はちま之助のすけのもとに、

仲間なかまたちがやって来きます。

その仲間なかまは、蛇へび、荒布あらめ（海藻かいそうのこと）、

包丁ほうちょう、玉子たまご、白うす、杵きね、

そしてBの人物じんぶつはだれ？



くまざちをま

く	①					
	②					
ち						
さ	③					
右						
衛						
門						

年 組 番 名前

問題3

Cの図を見て、空欄の字を埋めてみよう。

鉄之助の家^{はさみのすけ いえ}にやってきた猿^{さる}。寒い^{さむい}ので、
囲炉裏^{いろり}にあたろうとしました。すると……、

⑤	よ	た	①
⑥	し	ま	ね
つ	と	ご	て
け		④	②
⑦		ぶ	く
る		ん	③
		の	し

① ねて
② くに
③ へ
④ たまご
⑤ よ
⑥ つ
⑦ る



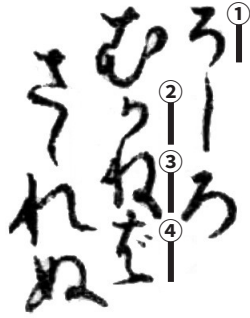
C

問題 4

Dの図を見て、空欄の字を埋めてみよう。

カニの仲間たちはいろいろな方法で猿を懲らしめます。

くまはちさし右衛門の攻撃は……、

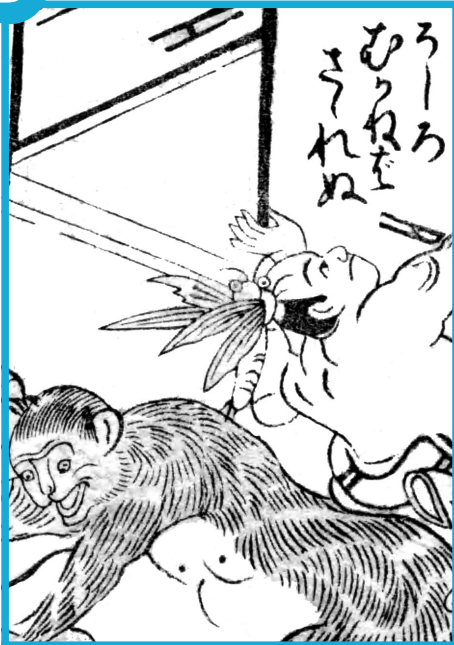


さ	む	①
*		②
れ		③
ぬ		④

ヒント

絵のくまはちさし右衛門の様子がヒントです。

D



*「く」：踊り字と呼び、前の字をくり返します。

年 組 番 前 名

解答

問題 1 「さわかにはさみのすけ（左王可尔者左三乃春計）」

問題 2 「くまはちさし右衛門（久末者知左志右衛門）」

問題 3 「か（可）ねてた（多）くみ（三）したまご、じ

ぶん（志不无）のよしとはね（者年）つけけ（介）
る（かねて工みし玉子、時分の良しと撥ね付けける）。

問題 4 「う（宇）しろむかねば（可称者）さゝ（踊り字

れぬ（後ろ向かねば刺されぬ）」。

教材について

ねらい…くずし字を学びながら、江戸時代の昔話と現代

の昔話とを比較する。

時間配分…35分。授業時間…5分（くずし字の説明）、15分（問

題 1・2）、15分（問題 3・4）。

対象教科…国語、社会、書写・書道

問題解説

今回扱った問題は江戸時代の「さるかに合戦」^{がっせん}です。

皆さんご存じの「さるかに合戦」ですが、現代の昔話とは少し内容が異なり、登場人物に名前があったり、カニ

の仲間が現代の昔話より多いのが特徴です。

問題 1

答えは「さわがにはさみのすけ」です。ちょ

んまげがカニになつていきますね、江戸時代の絵本は割とこのように、ちょんまげをその動物などにして描かれました。字の解説ですが、①は「わ（王）」です。王はワ
ンと読みますね。その名残です。②は「か（可）」、よく
出てくる字です。③は「に（尔）」、④は「は（者）」です。

（者は漢文で「は」と読むことを習ったこともあるかもしれませんが）
⑤は「み（三）」、⑥は「す（春）」です。現代の昔話ではカニとしか書かれませんが、江戸時代では名前が付けられていました。漢字で書くと「沢蟹 缺之助」^{さわかに はさみの すけ}でしょうか。カニだからはさみ、特徴をつかんだ命名です
ね。

問題 2

答えは「くまはちさし右衛門」です。①は現

代の字と字母が同じ「ま（末）」です。②は「は（者）」、
③は「し（志）」です。こちらも鬚^{まげ}が蜂^{はち}になつていま
すね。漢字で書くと熊蜂刺^{くまばちし}右衛門^{えもん}でし
ょうか、蜂の攻撃が刺すことから命名されたのでし
ょう。缺^{けつ}之助^{のすけ}の仲間たち
は、蛇^{へび}（蛇市^{へびいち}）、荒布^{あらかめ}（荒布入道^{あらかめにゅうどう}）、包丁^{はちまき}（包丁太郎^{はちまきたろう}）、卵^{たまご}（玉子^{たまご}）、

白うす（たて白うす入道）、杵きね（手杵てまね搦右衛門）など、さまざまな種族がいます。

問題3

さて、猿への仕返し時の時間です。鉄之助の家に行ってきたて囲炉裏にあたろうとした猿に、玉子が攻撃します。①は先に出て来た「か（可）」、②は「た（多）」、③も前に出た「み（三）」です。「かねてたくみし（かねて）」から、前もって作戦を立てていたことがわかりますね。そして、「たまご」がどうしたか、④は「じ（志）」、⑤は「ぶ（不）」で、「じぶんのよし（時分の良し）」、ちょうどよいタイミングということ。⑥は「は（者）」、⑦「ね（年）」、⑧は「け（介）」で、通して読むと「はねつけける」となります。つまり、玉子は猿がいろりの火に当たろうとした好機に、爆発して猿に攻撃したわけですね。現代でも電子レンジに「卵を温めないで下さい」と注意書きがありますね。卵の性質を踏まえて猿を懲らしめるわけですね。

問題4

そして、猿への攻撃方法は多彩です。熊蜂刺右衛門はどのように攻撃したでしょう。これまで学んだくずし字にもありますが、①は「う（宇）」、②が「か（可）」、

③は「ね（祢）」、④が「ば（者）」です。「さ」の下にある記号は初めて見るかもしれませんが、前の文字を繰り返す「踊り字」という記号です。漢字の「々」を見たことがあるかと思いますが、これのひらがなバージョンと考えるとわかりやすいでしょう。通して読むと「後ろ向かねば刺されぬ」、要は刺右衛門はちよんまげが蜂の形をしているので、後ろ向きにならないと針が猿に刺さらないわけです。なかなか滑稽な攻撃ですね。

この昔話は最終的に猿が懲らしめられて話を閉じますが、興味深い猿への攻撃が描かれています。

教材解説

本書は西村重長画『さるかに合戦』です。底本は稀き書複製会叢書編の復刻本（米山堂、大正一五年）で、国立国会図書館デジタルコレクションで公開（<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1183075> DOI: 10.11501/1183075）やれています。画像を一部加工（レイアウトの変更、問題としない箇所を削除）しました。

（担当：加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸）

